当事者の声

亀（カメ）のお礼

あれは確かボクが幼稚園に入る前だったと思う。洗濯機の中に一匹の亀を飼っていた。ある日その亀を池に逃がしてやる事になった。最初はすっと池に潜りかけた亀がくるっと向きを変えてこちらに向かってきた。いとこは「キャーもどってくる」と怖がっていたが、亀はボクたちの近くまでくると、ぺこっと頭を下げて再び池に潜っていった。

不思議な体験だった。亀はきっとお礼を言いたかったんだろう。その時ボクは思った。あんな小さな動物でも人間のようなソウル（魂）を持っていたんだと・・、魂の重さに人間も動物も関係ない。今では小さな虫も（たとえば蚊やハエでも）殺せなくなった。それもあの亀の事が脳裡から離れない

冬から春へ　曽根　朗

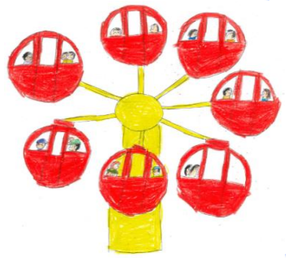
命が削るように一日が終わる
緩やかな時の中で花を咲かすように生まれてくる
人は忘れることが多い---
命のバトンは一人一人が守っていきたい
春の嵐が吹こうともずれてはいけない--
私は意気地がないかもしれないが
くじけそうな悲しい冷たい冬を乗り切ろうと--
人生わかちあうこと忘れてはいけない---
春のような心開く、ひらめく、
人と比較しない世界であってほしい

【太郎のマンガ】

良　心

かんらん車

11月1日やすらぎ工房の日帰りりょこうは楽しかったです。
かんらんしゃからアンパンマンミュージアムが見えました。



＊兵家連創立５０周年記念大会　「本人の心の叫びを聴き、家族の物語を創ろう！」
2019.10.5　兵庫県看護協会２Ｆ　（案内ポスターより↓）

統合失調症の母を持つ
精神科医二人と人気漫画家の
トークライブ
『家族への想いと三人との出会いから伝えたいこと』

登壇者：
糸川 昌成（東京都医学総合研究所・精神科医）
夏苅 郁子（やきつべの径診療所・精神科医）
中村 ユキ（『わが家の母はビョーキです』著者・漫画家）
新銀 輝子（コーディネーター・兵家連会長）
大倉 正也（家族会代表・兵家連理事）

参加者：家　族３３１人
支援者等１０６
当事者　５３
（８月末）計　４９０

やすらぎ工房から職員４人と理事長が参加

編集後記

今年の日本中を沸かせたラグビーワールドカップで、何より私を引き付けたのが、ニュージーランド選手のあのハカ踊りだ。先住民の心を引き継ぐパフォーマンスにラグビー精神の力強さ、他者へのリスペクト（尊敬）を感じた。もちろん、ラグビー人気の背景に日本選手の素晴らしい活躍があったが、開催地域での外国人選手との交流や、台風19号被災者への追悼と支援、ボランティアがあった。スポーツを通じての共感の輪が広がる。

兵家連創立50周年記念10月イベントへの参加申し込みを8月締め切らざるを得ないほど、参加者が殺到した。それはライブトーク出場の特に三人への期待があったのでは？　当事者の家族として貴重な発言に共感を呼んだと私は思う。

先日、私は悩みに悩みぬいて「Amazonprime」に入会することに決めました．数か月どうしようかと考え抜いた末のこと。心晴れ晴れと申し込みに挑んだのですが何ということでしょう・・・。私、入会しておりました。え？いつから？もうこうなると晴れ晴れどころか悶々。しかし、入会の手間が省けた・・・と思うようにし、今年の秋の夜長は読書ならぬ海外テレビドラマにいそしむ日々。皆さまは秋の夜長に何を楽しまれたでしょうか。この調子だと私は秋の夜長の延長戦、冬の夜長に突入しそうです。今年も残すところあと1月。体調を崩されませんよう年の瀬をお迎えく

NPO法人　第２１号　令和1年11月27日　発行　NPO法人そよかぜねっと　1
そよかぜねっと通信
就労継続支援B型事業所
やすらぎ工房
〒673-0521　三木市志染町青山1丁目26番地
☎　0794(85)9990　FAX 0794(60)4533
yasuragi-koubou@maia.eonet.ne.jp

"尊厳と勇気と"

理事長　伊東久雄

科学では説明できない尊厳の感情と、表現の自由----

10月５日の兵家連創立５０年記念大会、「みんなねっと」近畿ブロック家族の集いのトークライブで、遺伝学者の糸川昌成氏が17世紀哲学者デカルトのおかげで、はやぶさ２が火星まで正確に飛んで、地球まで戻ってこれたと、デカルトが物質のみの法則性を探求する近代科学を打ち立てたと語りつつ、「尊厳や自尊心といったコトは、合成化合物というモノでは操作できません」と、脳という物質だけから心を説明できないと説明された。私は尊厳や自尊心こそ、人間らしさの基本だと想う。

ふと、脅迫・威嚇という“言葉のテロ”の攻撃から三日で展示中止に至ったトリエンナーレ展を連想する。2013年から三年で公共施設の貸出・催しの後援を「政治的中立」の名で拒否した４３自治体があるという。沖縄の叫びを画面に張った絵の展示後援を茅ケ崎教育委員会が拒否したために、泣く泣く展示を断念した画家石黒良行さんは憤る（9／４ＮＨＫ「クローズアップ現代」）。巷にあふれる匿名による罵詈雑言、それによる行政の萎縮は表現の自由を侵し、個人の尊厳と自尊心を傷つける、哀しい流れである。

中村ユキさんの漫画「わが家の母はビョーキです」から

上記の記念トークライブ研修会で、漫画家中村ユキさんがこの著を世に出すまでの苦悩と迷いを聞いた。彼女は４歳の時母が統合失調症発症し、適切な治療がなされないまま17年間が過ぎて初めて精神科病院に連れて行ったが、「相談に行っても助からない」の現実に絶望、「もう、母か私が死ねば問題解決！」と投げやりになった時に、発症から２５年目にして、問題解決に積極的に支援するＰＳＷ（精神保健福祉士）に出会い、家族が治療環境について学び、その改善に取り組み「穏やかな日常を手にすることができた」。そして、夫の助言もあり、無知や偏見が病状を悪化させると、ありのままの現状を広く世に問う、漫画によるカミングアウトした。その表現の勇気に家族の一人として、強く共感した。

患者の尊厳を冒す身体拘束は？

2017年「日本大好き」と来日した、２７歳のニュージーランド青年が激しいウツから身体拘束されて10日後に死亡（動けない体で血栓ができた）、100年前から身体拘束の解消に取り組んできた祖国の精神医療関係者らが驚き怒った(6.18 NHKTV「ハートネット」)。この報道に多くの反響----特に「理想論だ」と反発した現場看護師をスタジオに招き、「人手不足でやむをえない」の声、拘束しないで患者が笑顔になった日本の病院の試みも紹介された(10.16 NHKTV「クローズアップ現代」)。身体拘束が一万人、高齢化による認知症の入院増の現実、他人ごとでない。

上記の研修交流会で、テーマ「本人の心の叫びを聴き----」にちなんで、私は閉じ込められた家族当事者の忘れられない叫びを取り上げ、「孤立した人は隣にいる」と意見した。憲法第３４条の身体の自由は個人の尊厳の基礎である。

母と自身が精神疾患当事者である、精神科医夏苅郁子さんは精神科医療についての７千人対象の全国調査をして、その改革に尽力している。

自他の尊厳を護るべく、勇気を出すことが一人一人に問われていると想う。

（2019.10.21 記）

学んだこと

職員　森本めぐみ

今回の記念大会は、何より著名な三人の先生方のトークライブを楽しみに参加した。三方それぞれに違う個性があるが、三人共が、三人の出会いを貴重なものと認識していて、出会いを通してそれぞれに自分の活動領域を膨らませていて、精神病患者の家族の想いを発信していることが素晴らしいなと感じた。

糸川先生、夏苅先生が研究者・医者としての専門的な意見を述べる中で、中村先生がうき換えをしてくれているな、と感じた。また、夏苅先生ご自身は当事者としての側面もあり、率直に服薬中であることや投薬の必要性を実感を持って語ってくれたことは、投薬治療を知識として学ぶよりも有益なものとなった。

更に、夏苅先生が話されていた、家族会は地域の精神科病院の医院長と密接に繋がることで相互協力の関係性が得られるという意見は、今後の家族会存続への道筋として有効

本人と出会い

職員　犬飼恵美奈

今までは、本人が「子」である人と接する事が多かったが、今回当事者が「親」である子の立場の人の話を聞くことが出来て貴重な体験だった。当事者と深く関わりがある人への支援体制をしっかり整えていくべきだと感じる。また、何年かかっても、やはり出会う人によって、状況が劇的に変わるという実例も目の前で聞き、自分も当事者を取り巻く支援者の一人として、その人の状況が良い方向に変化するような支援をしたいと思うし、福祉サービスや法律の知識をより一層身につけないといけない、と感じた。

統合失調症の多面的な理解

職員　長 ひろか

科学者・糸川先生、精神科医・夏苅先生、当事者家族であり漫画家・中村先生と、それぞれ違った立場のお三方によるトークライブは、とても印象的なもので、互いの立場を認め合う姿勢は、とても感銘を受ける。特に「精神科医療は、モノ（脳）とコト（心）の両面が深く影響し合っている」、「薬の無駄飲みを止める為にも数学的な解明が必要である」という内容。”多面的な理解”という考えを意識して、今後の支援に活かしていきたい。

初版 第９刷の帯 からコピー
（2009年4月）

シリーズ15万部突破!
（最新刊の帯 に刷り込み）

発行：㈱ サンマーク出版
☎ 03-5272-3166
定価： 1,200円＋税

抜粋： 130ページ （本文・全167ページ）

いい本おすすめ！

・男性20名が利用し、1日平均では14.7人の利用となった。(4月例)
・女性4名が利用し、1日平均2.5人の利用となった。

1日平均利用者数（人）

1日16.4人が利用（前年比1.9人▲）
延利用者数の男女比率・・・10. 9:1

年度	30	R1	増減	男性		女性	
4月	18.8	17.2	-1.6	14.7	20	4	2.5
5月	17.9	17.8	-0.1	15.4	21	4	2.5
6月	18.1	16.6	-1.5	14.2	20	3	2.4
7月	18.4	15.4	-3.0	13.2	19	3	2.2
8月	18.5	15.0	-3.5	12.8	20	3	2.2
9月	18.6	16.1	-2.5	13.8	19	4	2.3
10月	17.7	16.8	-0.9	14.5	19	4	2.3
11月	18.1						
12月	18.2						
1月	17.8						
2月	17.3						
3月	17.0						
合計	18.0	16.4	-1.6	14.1	19.1	3.9	2.3

［わが家の母はビョーキです］ 検索 から購入へ進めます。

当法人の 事業報告書・決算報告書は NPO法人ポータルサイトで閲覧できます。
［NPO法人そよかぜねっと］検索 ⇒ 特定非営利活動法人そよかぜねっと｜NPO法人ポータルサイト
ホームページは［やすらぎ工房三木］検索 が楽です。

心の病の不思議

精神の病気は、過労やストレス等々に起因した脳の誤作動・病気だと言われています。先日、兵家連創立５０周年記念大会の講演の中で、精神科医の糸川先生が言われた言葉でとても印象的なものがあります。「心の状態で脳の状態を見ることはできるのではないかと考えた。しかし、そうは言えない。脳の中に尊厳というたんぱく質も自尊心というものも生まれない。脳の状態だけでは調べられない。脳の状態は原因ではなく結果。」と言われていました。人の体は様々な物質で出来ていますが、感情・心というのはどこに起因するのだろうか？？人体の物質では計り知ることのできない精神の病の難しさ、奥深さを感じるとともに、薬の治療だけでなく関わりが

障がい者作品展示会

●11/30（土）～12/6（金）
●市役所みっきぃホール

毎年12月3日の「国際障害者デー」から12月9日の「障害者の日」までの7日間が、障害者週間になっており、市役所みっきぃホールで毎年”障がい者作品展示会”が開催されています。今年は、11/30(土)～12/6(金)まで、市内の事業所や団体の作品がずらりと並びます。

やすらぎ工房からは、通信やニュースでおなじみの太郎さん，茂雄さんをはじめ、総勢6名の利用者が作品を展示します。併せて自主製品の展示販売も行います。
ご覧いただけると

昨年の展示風景

～就労継続支援B型事業・第10年度～

◆年間250日開所、4.505人が利用
（1日平均利用：18.0人） 前年比▲1.2人

◆利用者の工賃平均は 9.316円/月
・年額 267千円～122円（最高～最低）

◆39万円 ｼｬｯﾀｰ倉庫設置助成金を収受
～神戸やまぶき財団様から～

＊）内2名 老齢

利用者

		年令	～20	20～	30～	40～	50～	60～
◆利用契約人数	25 人		0	5	5	8	5	2
(31.3.31現在)	男 21 女 4	障害者年金			無	3級	2級	1級
					＊）8	1	13	3
		障害種別			精神	知的	身体	
◆通所者延人数(年)	4.505 人				19	10	2	
◆1日平均通所者	18.0 人★				（重複障がい有り）			
◆開所日数	250 日							
◆送迎利用延人数	4.745 人（1日平均 19.0人）							

利用者工賃

◆ 工賃支払い人数(平均)	20 人/回	
◆ 工賃・ﾎﾞｰﾅｽ総額(平均)	9316 円/回	年額 267,140円 ～ 3,050円（最高～最低）
工賃平均(月)	8233 ‥29人	年額 241,030円 ～ 2,520円（最高～最低）
ﾎﾞｰﾅｽ平均(年2回)	6982 ‥27人	年額 26,110円 ～ 990円（最高～最低）
◆ 工賃支給総額(年)	324 万円	

★ 24人前後/月、日の事務処理を行う。　支払対象<29>人/年　通所者が作業で得た収入から支払う。

職員

	3月末
◆ 常勤職員	6
◆ パート職員	2

職員給料

⇨ ◆ 給料・通勤手当・賞与	2110 万円
⇨ ◆ 給料・通勤手当・賞与	230
	2,340 万円
退職給付費用	25 万円

通勤手当 67万円
社会保険302万円 含む

給付金の62.5%相当額

ボランティア さん

	(ﾍﾟｰｽ)
◆ ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ〈4〉ｸﾞﾙｰﾌﾟ	3 人
	81 人/延

無償で支援いつも有難うございます。

就労継続支援B型事業
就労定着支援事業所

数字で見る『やすらぎ工房』
30年度実績による
～ ヒト・モノ・カネ ～

アクセス

神鉄緑が丘 ー 工房	2.1 km	（徒歩	30 分）		
神鉄緑が丘ー公民館前	1.4 km	（バス	5 分）	150 円	
緑が丘公民館前ー工房	0.7 km	（徒歩	10 分）		

保有不動産　青山1－5　名和好子様から寄付（贈与）により取得（21年12月）

◆ 居宅 73.99 ㎡（木造瓦葺平屋建）
◆ 土地 247.99 ㎡

	合計
① 土地 999 建物 171	1170 万円
② 車両 64 備品 83	227
建物付属 80	1397

建物、建物付属、車両、備品は減価償却後の期末残高
★23年度から償却資産計上と減価償却を行っている。
他に、リサイクル預託金2万円アリ

収入

	万円	（前年）
訓練等給付金等	3743	3981
会費収入	7	7
寄付金・助成金等	41	72
負担金収入・雑収入等	194	198
作業収入	395	348
内職賃収入等	383	
バザー売上	12	
	4,380	4606

施設概要
（旧緑が丘ガス事業所管理棟）

◆敷地面積 967.97 ㎡
◆建物面積 190.85 ㎡

	1F	2F
作業室	61.8 ㎡	
多目的室（玄関）	30.9 ㎡	
休憩・談話室	14.1 ㎡	
湯沸し室	4.6 ㎡	
物入（外部）	5.3 ㎡	
トイレ	○(大2、小1)	○
DK		8帖
事務室		6帖（和室）
和室		6帖／4．5帖
洗面スペース		2.7 ㎡

～屋内階段なし～ チョッと不便・非効率

別棟

喫煙ハウス	スチール物置	ログハウス
6.7㎡	9.4㎡	2.9㎡
	3.9㎡	

駐車スペースは十分
三木市からの無償使用貸借 恵まれています。

支出

	万円	（前年）
給料・賞与・手当等	2365	1871
社会保険料	314	272
光熱費・通信・旅費等	86	82
事務機等使用料・備品	141	126
修繕・消耗品・委託費等	240	272
給食費・保険・その他	311	308
減価償却費	92	101
支払工賃(メンバー給料)	324	350
作業材料費等	6	6
地代家賃	0	0
	3,879	3388

～～ 左上にヒト、左下にモノ・コト、右半分にカネ ～～